



宿泊型体験学習「秋合宿」の様子

(特非) 森は海の恋人

リアスの浜における 湿地・干潟保全活動に 基づく地域再生

森里海の環境調査
実施回数

35回

体験学習の
受け入れ回数

30回

活動の全体目標に
対する達成度

90%

復興支援助成

3年目

実践

課題

三陸らしいまちづくりを推進すべく被災した低地に出現した汽水域を生物のゆりかごとして保全し、観光や環境教育の場として利活用しつつ漁業生産性を高める方策を検討する。

目標

津波災害により干潟化した新たな汽水域等を保全活用することで、沿岸生態系の多様性を高めつつ地域の活性化をはかり、これをモデルとして他地域と連携し「環境保全に基づく新たな復興」を広域的に推進する。

活動内容

活動1.環境調査延べ35回

活動2.環境教育30回(受入22回、宿泊型体験学習3回、出張講義5回)/
湿地・干潟保全の実現化と情報発信:各団体との連絡調整、行政等関係機関との意見交換・情報共有等を実施。湿地・干潟の視察を目的とした51団体延べ400人の訪問を受け入れ、各種講演会を51回行い、延べ7,000人へ活動の報告を行った。



舞根地区で保全が決まった湿地

達成できなかったこと

当活動地区内については当初目指していた成果を得られたと感じている一方で、他地域への波及効果としては現状の復興段階の問題もあり十分な影響を及ぼすに至らなかった。

今後の展望

自然と共生するまちづくりの重要性や現存の自然環境を保全する大切さを地域で共有し、世界に発信してゆく。

成果と工夫した ポイント



成果

環境調査は安定した活動が継続して行われた。また体験学習実施回数や各種講演回数も当初の予定を上回り、広く活動を紹介することができたため、同取組みに関する問い合わせは年150回以上となった。

工夫

各大学や研究機関と協力関係を築くとともに、地域住民の理解促進と行政等各機関との綿密な連携を目指した。